

1 学校の教育目標

「気づき、考え、行動する」生徒の育成

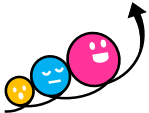
2 経営の基本方針

○魅力ある学校づくりの推進

○豊かな人間性とたくましい心身の育成

○確かな学力の定着と向上

○学校、家庭、地域が一体となった教育の推進



※ 太字ゴシックは川内中学校の重点項目

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方法（○考察●改善方策）	学校関係者評価委員の評価
			教職員	生徒	保護者		
生徒指導	いじめや非行への対応	いじめや非行を許さない毅然とした態度で生徒指導に取り組んだ。	3.7	3.7	3.0	○ 毎月実施している『「学校生活を明るくする」ためのアンケート』『ジブンミカタプログラム』を貴重な情報源と捉え、しっかり内容を確認するなど、生徒からのサインを見逃さないよう心掛けている。 ● 不登校生に対して、個別のケース会議を開催し、保護者と共通理解のもと対応をしている。また、家庭訪問や電話連絡も行っているが、今後、さらに、SSWや関係機関との連携を深めながら進めていきたい。 ● 本校は、規範意識の高い生徒が多く、落ち着いた学校生活を送ることができているが、ルールやマナーを守れない生徒もあり、多くの教師が共通認識をもって、関わる必要がある。 ○ 学年主任を中心とした学年部内での情報交換を基本として、生徒指導主事との連携や、生徒指導部会による学年を越えた情報共有等を実施することができている。今後もチームとしての取組を継続していく。 ○ 近年、本校でも生徒間のSNSにまつわるトラブルや問題が多発している。問題がおこった際には多方面から情報を収集しながら、解決に向けて丁寧に対処している。今後も情報モラルに関する指導が必要である。	教員が、様々なかたちで生徒のために動いてくれていることに感心する。今後も生徒とのコミュニケーションを大切にしながら見守っていってほしい。 不登校に関しては、様々な原因があると思う。ケースバイケースだと思うが、信頼関係を深めて生徒に寄り添っていただきたい。 生徒から自主的に意見が出るのはよいことだと思う。意見を吸い上げ、全体へ水平展開を。 いろいろな生徒がいる中、生徒指導は大変だと思う。チームとして連携しながら取り組んでいただいていることをありがたいと思う。 問題のある生徒の指導はもちろん、それ以外の休み時間の過ごし方なども気が付けば指導をお願いしたい。
	不登校への対応	不登校解消に努めるとともに、不登校生に対して適切な指導や支援を行った。	3.4				
	基本的生活習慣の定着	挨拶や決まりの遵守など基本的な生活習慣が身に付くよう、指導や支援を行った。	3.5	3.6	3.1		
	生徒指導体制の充実	校内の連携を図り共通理解のもと、適切に生徒に関わる積極的な生徒指導に取り組んだ。	3.4				
	相談体制の充実	教育相談等を通して、生徒のいじめや悩みの早期発見・早期対応に努めた。	3.4	3.2	3.1		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	教科の特性を生かしながら、基礎・基本の定着を図る取組を継続して行った。	3.4	3.3	2.8	○ 今回のアンケートで保護者から「学校を休んだときに授業が進むのは仕方がないが、フォローをしてほしい。」という声が見られたが、ロイノートで情報共有等を行っているので、今後も丁寧に続けていきたい。 ● 今回のアンケートで保護者から「期末テスト期間中の書類提出は、子どもにかなりの負担だった。勉強もしたいと不安だったようだ。」という声が見られた。宿題や提出物と家庭学習のバランスを見ながら過度な負担のない状況を作って行きたい。 ○ 昨年に続き、東温市環境保全課と連携しながら日産自動車などから講師を招き、理科の出前授業を行った。授業では様々な機材を使用した体験活動も盛り込まれ、意欲的に活動する生徒の姿が見られた。 ● 進路学習については、3年生だけではなく、全家庭への情報発信なども積極的に行いながら、学校として生徒全員の進路保障につなげていきたい。 ○ タブレットを活用すれば、複数の意見を同時に共有したり、ホワイトボードに見立てた画面に共同で書き込みをしたりすることができる。こういった活動を取り入れながら、生徒が主体的に学習を進められるように授業を組み立てた。	体調不良で欠席をした場合について、全体教育の中で学校にフォローを求めるのは難しいのではないかな。 家庭学習の充実においては、他校でも課題になっている。保護者の評価を高めるには、子どもとのかかわりを大切にしていただきたい。 社会とつながるという点において、出前授業の実施は大変よかったのではないかなと思う。来年度以降も継続していただきたい。 入試方法も変わってきており、少しずつ学校の手から離れていくように、PTAを中心に情報交換の場所がつかれないものか、との思いもある。 今後タブレット等の積極的な活用をお願いしたい。ただ、そういったICT機器を活用する際には、生徒の能力差に配慮しながら指導してほしい。
	家庭学習の充実	生徒一人ひとりの実態や学年に応じた、家庭学習の充実を図るための指導・助言を行った。	3.1	3.1	2.5		
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	体験的な学習や問題解決的な学習を、積極的に授業に取り入れた。	3.5				
	進路指導の充実	進路学習指導計画にもとづいて進路学習を実施し、自己の生き方を考えさせた。	3.3	3.3	2.6		
	学び合う授業の創造	生徒の学習意欲を高めるために、学び合いの場を工夫して設定した。	3.4				
豊かな心・健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	教育活動全般を通じて、生徒の道徳性を身に付けようと努めた。	3.4	3.4		○ 道徳の授業の充実と併せて、学校生活全般を通して正義が通る学校、ダメなことはダメと言える学校となるよう教職員間で情報共有をしながら進めている。 ○ アンケートを実施した際は、その結果や内容から、適切かつ迅速に対応できるよう関係者間で情報共有を行っている。併せて、学級担任以外の教員にも相談に行くことのできる体制づくりに努めている。 ● 今年度もインフルエンザの急激な流行により、文化祭前に学年閉鎖の処置をとった。今後、気温が大きく下がっていく状況の中、手洗い・うがい・換気等の習慣を生徒にしっかりと定着させる必要がある。 ● 人権に対する意識や感覚は、日々の教育活動を通して醸成されていくものである。多くの人と関わる学校は、生徒にとって人権について考える機会を数多く与えてくれる場であるが、教員も自身の言動を振り返り、改善をしていく必要がある。 ○ 学習面だけでなく、運動面、文化面など、個々の生徒が自分の能力を発揮しながら活躍できる場を、学校として数多く設定していくことが重要である。それによって生徒に自己有用感を醸成させたい。 ○ 本校の現状を踏まえ、今後の部活動改革の方向性について地域や保護者への説明を行いながら、スムーズに地域展開を図れるように進めている。	社会で生きていくためには、道徳教育は大切なことであり、引き続き指導をお願いしたい。 学校生活のアンケートでは、子どもたちが本音で答えられることが大切で、その結果が生かされることを期待している。子どもの評価が高いのは嬉しいです。 学校の取組も大切であるが、まずはそれぞれの家庭ができる体調管理に向けた取組をしっかりと行うことが必要だと思う。 普段の生活の中で気になる発言や行動を見つけたときに、その都度、丁寧に指導していくことが大切ではないかな。 その活動で生徒にどんな力を育むのか、誰がどう関わっていくのかを、学校運営協議会でしっかり協議し、学校・家庭・地域で共有できればと思う。 生徒数の減少により、部員の確保は年々難しくなってくると思う。部活動については様々な点において見直す時期にきていると思う。
	仲間づくり・集団づくり	学校生活のアンケート等の結果を活用して、望ましい集団づくりに努めた。	3.2	3.6	3.1		
	健康づくり・体力づくり	日々の生活の中で、健康管理や体力作りに努めるよう生徒に指導・助言を行った。	3.4	3.5	3.0		
	人権・同和教育の推進	教育活動全般を通じて、生徒に人権感覚を身に付けさせるための指導を行った。	3.4				
	自尊感情の高揚	生徒一人ひとりのよさに目を向け、それを称揚することによって自尊感情の高揚に努めた。	3.6	3.3			
	部活動の充実	部活動の意義を生徒に理解させ、充実した部活動を展開した。	3.2	3.5	3.2		
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒一人ひとりの実態や特性の理解に努め、生徒の状況に応じた学習指導や助言を行った。	3.3	3.4		○ 支援員を含めた教職員全員が、個々の生徒の特性をしっかりと理解した上で、個に応じた支援を進めていくことが重要である。また、関係機関とも連携しながら、先を見据えた指導を行っていくことも必要である。	個性を大切にしながら、生徒の力を伸ばしてくれていると感じる。今後も一人一人の特性を理解しながら、その生徒に応じた対応をお願いしたい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	継続した登下校指導を実施し、登下校の安全確保や、生徒の交通ルール、マナーの向上を図った。	2.8	3.8	3.3	● 地域の方から「生徒の登下校時の様子に問題がある」とご連絡をいただくこともあるが、生徒自身は評価が高いことから、交通ルール遵守に対する意識の高揚を図るため、継続的な交通安全指導が必要である。 ○ 毎年、実施している「かわうちCDC(旧クリーンかわうち)」を今年度も実施した。本年度は川上小学校と連携した実践を行い、充実した活動となったため、後は他の小学校との連携についても検討していきたい。	登下校の安全確保「ヘルメット着用」は命にかかわることであり、保護者と連携して着用するようお願いしたい。
	防災教育の充実	保護者や地域との連携を図り、防災に関する生徒の意識を高め、「自助から共助」への防災教育を展開した。	2.9	3.7	2.9		防災教育に対しては、生徒の満足感がみえる。保護者への啓発が必要だと思う。地域の防災訓練、清掃などに保護者と一緒に参加して交流をしてほしい。
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	「学校通信かわうち」やホームページなどにより、学校の情報を分かりやすく公開した。	3.5	3.5	3.0	○ 学校行事をはじめ、様々な活動について、なるべく早くホームページにアップするよう心掛けている。保護者からは「もう少し月行事を早くアップしてほしい」等、ホームページに対する要望も出ており、可能な限り対応していきたい。 ○ 1年生「坊っちゃん劇場」における観劇、2年生「ジョブチャレ」での地元企業の活用、3年生「一日総合」に東温市在住外国人の講師招聘など、今年度も様々な活動において地域の施設・人材を積極的に活用した。	ホームページ・学校通信で、子どもたちの活動の様子がよく分かり、ありがたく思う。個人情報の観点から、掲載には限界があると思うので、できる範囲で継続していただきたい。 ジョブチャレは賛否両論あると思うが、地域とのつながりにおいても意義があるので、様々な意見を取り入れながらアップデートしていけばいいと思う。
	地域教材の有効活用	地域の人材や施設・自然などを取り入れた授業や活動を行った。	3.5	3.4	2.9		ジョブチャレは賛否両論あると思うが、地域とのつながりにおいても意義があるので、様々な意見を取り入れながらアップデートしていけばいいと思う。
特色ある学校づくり	ボランティア活動の充実	生徒がボランティア活動への興味や意識を高めるための、工夫や支援を行った。	2.9	2.9	2.5	● アルミ缶やエコキャップの回収運動など、日常的にボランティア活動に取り組んでいるが、一部の生徒の参加となっていることから、活動の成果を目に見える形で紹介することで、活動に対する意識の向上につなげていく。 ○ 「魅力ある学校づくり」の一環として、仲間づくりや集団づくりを目指して生徒会が企画した取組「Eプラン」を開催するなど、本校では生徒の主体性を重視している。その際、教師は側面から支援するスタンスをとるようにしている。	ボランティア連合会と連携しては。朝の挨拶運動やアルミ缶回収などを早朝から行っている姿を見て、すばらしいと思った。生徒はもっと自信をもっていいと思う。
	目指す生徒像の意識の定着	目指す生徒像「気づき、考え、行動する生徒」に対する意識を定着させるための、工夫や支援を行った。	3.4	3.4			体育祭をはじめとする様々な行事に生徒が自発的に取り組み、しっかりと成果を上げている。とてもすばらしいと思う。
施設・設備の充実	ICTの有効活用	教育効果を高めるために、電子黒板やタブレットPCなどの教育機器を用いた授業を行った。	3.4	3.4		● 本校では、各教室に電子黒板が設置されている。これは東温市ならではの設備環境であり、他市では見られないものである。タブレットとともに、こういった機器を有効に活用して「わかる」授業を実践していきたい。 ○ 管理責任場所の定期点検において、修繕や確認が必要な場合は速やかに対応する体制づくりに努めている。また、日頃の活動の中で施設環境についてこまめな情報共有を行うことで、大きな事故なく活動が進められている。	ICT活用については、個人差もあると思うので、一人一人への配慮をお願いしたいと思う。 安全面の配慮について日頃から取り組んでいただいており、ありがたい。保護者や地域で協力して環境整備をする機会があれば協力したい。
	施設・整備の安全管理	定期的な安全点検の実施により、安全・安心な教育施設環境を確保した。	3.2	3.5	3.2		